



グアム合気会 いいニュース

2012年3月号(第3号)

グアム合気会のホーム ページ更新

グアム合気会のホームページを更新しました。新しい情報を沢山載せていきますので、どうぞ頻繁にリフレッシュボタンを押して更新してください。

www.guamaikikai.org

O'sensei's teaching

「合気道では、決して攻撃はしない。攻撃をするということは、自己制御ができていないという証拠である。いかなる挑戦から逃れるな。しかし、攻撃者を不自然に押さえ込もうとしたり、コントロールしようとするな。攻撃者が攻撃したいように任せ、それを受け入れよ。攻撃者の後を追

うな。攻撃をかわし、確実に後ろに回れ。

“Art of Peace”より引用。John Stevens 氏訳

峰岸の合気道 40 周年記 念国際合気道セミナー 9 月 28 日—30 日

会場：アガニャの
International Sports
Center

祝賀会：29 日（土）マ
リオットホテル

海外からのお客様との
交流会：30 日（日）

既に、日本から 3 人の
高段の師範が来てくだ
さることが確定しまし
た。

嶋本勝行師範、8 段、大
阪豊中市正泉道場、

窪田育弘師範、7 段、奈
良県合気道連盟会長

船越光雄師範、7 段、山
形県合気道連盟会長

その他、

12 名 日本から

10 名 ロシアから

6 名 台湾から

5 名 香港から

合計 36 名確約されまし
た。9 月までにはもっ
と多くの方々からの御
連絡が入ることを期待
しています。

ホームステイを提供し て下さい。

海外からのお客様をホ
ームステイだ歓待して
下さる御家族を募集し
ています。現時点では。
Kenny Rekdahl: 1 名

新道場で稽古開始 2012 年 3 月 5 日（月） Internationa Sports Center Dojo

アガニャのスポーツセ
ンターの道場で、合気
道の稽古が始まりまし
た。以下会員が登録さ
れました。

Skyler Blas
Heyden Blas
Austin Castro
Robert Blas
Corina blas
Roy Hanes
Kristine Bakdat
Derrick Kuo
Ivy Lin
Makoto Blas
Victoria Blas
Darian Blas
Allen Torre
Aria Torre

Leonardo Cunha
Akio Tachibana

稽古日程：

子供：月水金 6-7

大人：7：15-8：30

連絡先：International
Sports Center, LLC
484 W. Soledad Ave.
Hagatna, GU 96910
Tel:477-9885
Diane Bachelder
diane@iscguam.com

伊藤匠君、
青木リオさん

御卒業お目出度う！！

3月15日、グアム日本人学校で、伊藤巧君が小学校を、青木リオさんが中学校を卒業されました。

日本人学校はとても小さい学校で、小学校の卒業生は3名、中学校は4名でした。

匠君はスーツにネクタイ、革靴といった正装で、自信たっぷりで背筋をピンと伸ばしていましたが、時々涙をぬぐっていました。リオさんも感激のあまり、送辞の際には涙を抑え切れませんでした。

この学校には、多くの合気道の子供たちも通っています。皆先輩の卒業に惜しめない拍手を送っていました。

左端が匠君



左端がリオさん



ヤマト君とハルト君



真衣、リオとヤマト



3月の昇級

3月1日

Half Yellow

Austin Castro

Hayden Blas



3月31日

Full Yellow:

Michael Burgess

Samantha Burgess



正泉寺道場 50 周年記念

道主のセミナー

9月9日(日)

現時点での参加者:

Richard Chan

Kai Rekdahl

Kenny Rekdahl

Ryan Harrison

Mutsuko Minegishi

他に御希望の方は？

国際合気道連盟総会及
びセミナー東京で開催

9月17日—22日

詳細については後日

本部道場 80 周年記念祝

賀パーティ東京で

9月23日(日)

峰岸の恒例ヨーロッパ
巡回指導 2012 年春季

April 18: leaving Guam

April 20-22: Holland

April 23-28: Monaco

April 29-May 12: Croatia

May 13-20: Russia

ロシアでは、国際合気
道セミナーを開催 5月

16日—20日

Ryan Harrison がロシア
のみ参加予定

アート&クラフトフェア
参加 3月10日(土)

日航ホテルにて

グアム合気道では、2回
の演武と展示ブース

年少組み：11:30-11:50

25名もの子供たちが参
集。初めての子供も多
かったが、自分でやり
たい技を決め、相手を
決めてためらいもせず
元気一杯の演武を御披
露。

年長組みと大人：

2:40-3:00

年長組みの演武はいつ
も素晴らしいと思う。



新会員

Barrigada Dojo

Sirena Rayphand

Brent M. Dana

日本からのお客様
浜田さんと原田さん



Saturday, children



Saturday, youth & adults





Sunday, adults



Sunday, children

Mr. Kenya Harada



Saturday, Children



Saturday, youth & adults



Sunday, adults



Sunday, children

浜田さんも原田さんも、子供たちの陽気で、温かくて、元気一杯に稽古する様子に驚いたり感動したり。とても強い印象を受けて帰られました。

原田さんからの礼状

手書きの分厚いお手紙を受け取りました。

「親愛なる峰岸先生へ、
(中略) 私は以下の3つの点について学びました。

体捌きにおいては：身体を中心を意識し、両手の高さ、奥行きを腰の動きに合わせることで、腕の力で相手を動かすのではなく、身体を入れていく一連の動き。相手の力が及ばない位置取りを考えること。受けにおいても自分の軸をずらさないこと。指先まで気を入れること。とりわけ、二教な

どのきめにおいては、相手の肩をつめる（炎症になってしまう）のではなく、伸ばすという点には衝撃を受けました。(略) 私は先生の動きに身をゆだねることをせず、自分が怖いなど自己中心に意識が向いていたのだと思います。(略)

以上のような目で、インターネットで見られる先生方の稽古模様を見ると今まで気にしていなかった先生の動きが見えてくるようになった気がしております。

つまるところ、相手を硬くさせているのは自分であって、自分の心が相手を信頼仕切れていない、自分こそが正しいと頑なになっているのだと痛感いたしました。二日目の稽古では、心を開いていられるよう心がけ、子供たちとの稽古がとても楽しく感じられました。

そして何よりも、グアム合気会の雰囲気、とりわけ子供たちの笑顔とやる気(楽しみ方)

にびっくりしてしまいました。ゲーム感覚で受身を楽しむ子供たち、進んで受けをとったり、技の名前を競って言い合う子供たち、稽古中、頭をぶつけて痛がる子供二人に心配そうに駆け寄る他の子供たち。僕にとって最高の雰囲気でした。峰岸先生が車中でおっしゃった、「子供たちは動きと心がまっすぐだから合気道に向いている」というお言葉が耳に残っています。(略)

大人である自分もそのような合気道の、そして人生の楽しみ方が出来たらと感じます。
(略) ”

僅か4時間の稽古の中で、この様な感想を持たれたこと、これだけ沢山のことを学ばれたと書かれていて、驚きました。

子供は皆んなの宝

人は60歳で還暦を迎える。還暦とは又初めに戻るといふ。私は今71歳、だから11歳の子供である。道理で、子供

たちがこんなに好きなのだな。みんな私の遊び友達だから！！私には自分の子供がない。第二次世界大戦直後に子供だったので、子供時代の楽しかった思い出は何も無い。みんなが貧しくて、石ころがおもちやだった。空き缶を蹴って遊んだ。裏の川が遊び場だった。三女だった私の着るものは皆セコンドハンド(二代目)ではなく、サードハンド(三代目)だった。活動的だった私は、次の妹にお下げすることは出来なかった。お小遣いなど貰ったことも無く、好きなものを買った覚えは一度も無い。お誕生日のケーキもプレゼントも何も聞いたことも無かった。健康であることだけで幸せだった。

だから、今の子供たちがどんな風に育っていくのかに興味がある。両親は子供とどんな風に接しているのだろうか。将来何になりたいのだろうか。家庭では兄弟姉妹と仲良くしているのだろうか、そして両親とは？

多くの子供たちが合気道にやってくる。でも、2ヶ月目の月謝を払う前に止めてしまう者がとても多い。時には両親が期待したより子供が早く上達しないから。でも、中には幼児から子供へ、子供から青少年へと育っていく子供たちも多い。6歳で初めて10年経ち、16歳で黒帯になる者さえある。

子供たちは、あるものは競技のあるスポーツを好む。あるものは体を動かすことさえ嫌がる。内向的な性格の者、積極的な者、合気道はどのような性格を持っていたとしても、それぞれが大切な事を学んでいくものを沢山持った武道である。段々皆良い子になって行く。皆力を合わせ、協力しながらそれぞれ成長していく。初めはちょっと心配気味、恥ずかしがっていても、やがて皆と友達になって行く。おむつをした子も、どんな年齢でも受け入れる。大きな道場に解き放たれた子供たちは、まるで

魚が大海に放たれたように伸び伸びと走り回る。追いかけてまわる。乱暴をしない限り、人を傷つけない限り、何でもして良いことにしている道場は子供たちの天国である。大人も一緒にはしゃいでくれることは、子供たちにとってこんなに楽しくて嬉しいことはない。子供はまず遊びに来ることによいと思う。慣れてきたら少しずつ躰も入れ技も入れていく。

子供はこの世の宝、両親だけの所有物だとは思わない。自分の子供の面倒を見て欲しかったら、他の子供の面倒を見て欲しい。外野であれこれ言わないで、稽古着を着て、子供に触れて欲しい。他の親とも稽古を通じて理解し合って欲しい。そして、子育ての役に立てて欲しい。

親が子供のように楽しんでいる姿を見ると、この親はとても良い親であると感じる。親が椅子に座ってじっと見

つめていると子供は気を使う。

子供という宝物は、皆が力を合わせ、愛情を注いで育てて行くのが理想だと思う。昔は大家族の中で、守られながら、又揉まれながら育った。でも今は事情が違う。せめて、競争の無い和やかな雰囲気を提供し、子供たちと一緒に遊び心身の鍛錬をして欲しいと願う。子供の成長を願う親も一緒に成長して欲しいと願う。